

千葉県産 両生類・爬虫類の外来種リスト

県内で公式、非公式を問わず記録のある種類と、近県ですでに記録があり、かつ外来種としての影響力が大きいと考えられる種をあげる。

影響重大さと対策の容易さを考慮した外来種リスト

	生態系への影響	定着度合	対策の容易さ	備考
ウシガエル			×	全県*
アフリカツメガエル				発見したい駆除*
ヌマガエル			×	印旛沼水系に侵入
トノサマガエル				定着は一箇のみ
ミナミイシガメ				印旛沼水系
ミシシippアカミミガメ				全県*
カミツキガメ				印旛沼水系**

** 特定外来種、* 要注意外来種

両生類

ウシガエル

1918年に日本に導入されたのち、農家の副業として養殖を奨励するため、国家事業として日本各地に配布された。北緯37度以南に定着している。千葉県では昭和の初期から徐々に記録がみつきり、現在全県の沼、用水池、流れの緩やかな河川に定着、繁殖している。

アフリカツメガエル

利根川・印旛沼水系で記録有り（大利根博物館）。養殖業者が野外に放逐しようとして現場で差し止められた事件あり（千葉県立中央博物館、尾崎主任研究員のメモがある）。在来のカエル類など水生生物を好んで捕食する性質を示す（飼育下での実験データ）。野外での越冬が可能なほど耐寒性を備えている（千葉大学構内の池での越冬記録あり）。

ヌマガエル

鋸南町、富山町など東京湾に面した一帯に定着している。1998年に確認されたが、2004年までに分布域の大幅な拡大は見られていない。一方、利根川流域では栃木県、群馬県境の渡瀬遊水池周辺から下流域に向かって分布を広げ、2004年夏には印旛沼に注ぐ高崎川流域の一部でも発見された。地域生態系への影響は未知数。ただし、ヌマガエルは他種のカエル幼体を捕食する傾向が見られる。

トノサマガエル

谷津干潟のビジターセンター内の池に定着していることが確認されている。

爬虫類

外来のカメ類では、3種の定着がほぼ確実である。いずれも県北部の都市河川に多く見られるが、カミツキガメの個体群は印旛沼に南から注ぐ鹿島川を中心に分布している。カミツキガメについては、東邦大学理学部と東京大学で県の受託研究費を受けて、現在調査を続行中である。

ミシシippアカミミガメ・ミナミイシガメ・カミツキガメ

グリーンアノール

近年小笠原諸島において、島嶼生態系への攪乱作用が非常に大きな種として注目され、国の特定外来種にも指定されたグリーンアノールであるが、神奈川県のある地域に小集団が定着し、すでに数年が経過しているという情報がある（神奈川県立生命の星地球博物館）。原産地は北米で、千葉県とほぼ同緯度の地域に分布している。越冬は可能であり、ペットやヘビの餌トカゲとして流通しているため、野外に放逐され定着する危険性が非常に高い。